

当別文芸の会だより NO,33

H24・12/15 発行 (連絡先・河地良一 Tel.23-2103)

12月は鶴田知也の「コシャマイン記」でした

12月8日(土)13:40からの白樺コミセンでの読書会には、師走の季節を向かえ、同人(メンバー)のみなさんも何かとあわただしい中、11名の方が参加されました。今月から板垣望さん(スウエーデンヒルズ在住)が新会員となりました。

今回の司会進行は大口弘美さんに担当していただき、また、東前寛治さんが、蝦夷といわれた時代のアイヌと和人との関係や、当時の地図などの資料を用意してくれましたので、参加されたみなさんは大変参考になりました。

この「コシャマイン記」は、昭和10年に同人誌「小説」に発表された作品ですが、第3回芥川賞を受賞しています。

みなさんの感想は、文章表現がむずかしい、アイヌの人たちのことがよく分かったなどさまざまでしたが、この作品で作者が主張したかったこと、民族や宗教、差別の問題など、現代にも通ずる話題に発展して盛り上がりました。

3年目を迎える「当別文芸の会」の活動も、ここまで順調にこれましたこと、お礼申し上げます。「たより」もこの12月で、33号になりました。

1月の読書会・文芸交流のご案内

次回は1月19日(土)13:40~16:00 白樺コミセンが会場です。藤沢周平の新潮文庫本「時雨みち」の中から、「山桜」(25ページ分)を同人(メンバー)の竹原一孝さんが、竹原節で語ってくれます。藤沢周平にぞっこの竹原ワールドが楽しみです。文庫本は12月の例会でお渡ししました(参加出来なかった方には、このたよりと一緒にお届けいたします)。

2月の読書会・文芸交流のご案内

2月23日(土)は、林芙美子の岩波文庫本「下駄で歩いた巴里」の中から北海道・樺太について書かれた「摩周湖紀行」「樺太への旅」「江差追分」(59ページ分)を同人(メンバー)の青柳文吉さんが、これまた林芙美子について熱く語ってくれます。お楽しみに。文庫本は11月の例会、たよりで、すでにお届けしてあります。今年度も、年明けのあと3回ですね・・・

文芸誌「当別文芸」(第3号)の原稿募集中

一応、締め切りは1月末です。ショートエッセイで結構です。同人(メンバー)のみなさんからの原稿、お待ちしております。

年の暮れもあと少し。除雪も体力づくりなんではなかね。よいお正月を。